共用品推進機構だより　２０１５年０２月１３日（４３）

目次

（１７３）共用品推進機構関連記事

▽「ブログを更新しました」
▽「日本提案、アクセシビリティ国際ガイド ISO/IEC ガイド 71
　13 年ぶりに改訂 より多くの人が使えるモノ・サービス／星川安之」

（１７４）製品関連記事

▽「直感的に動かす 健常者も楽しく／WHILL」

（１７５）行政関連記事

▽「家電操作 思うだけ／島津製作所、産業技術総合研究所」

（１７６）その他、各種関連記事

▽「お兄ちゃんと手話うれしい 妹、5 歳で検定最年少合格」

（１７７）新刊紹介

▽『イラストで学ぶ音声認識』
▽『バリアフリーと音 Dr.Noise の「読む」音の本』

（１７３）共用品推進機構関連記事

▼「ブログを更新しました」

・理事 栄久庵憲司氏　永眠
共用品ニュース（ブログ）　http://www.kyoyohin-news.org/

▼「日本提案、アクセシビリティ国際ガイド ISO/IEC ガイド 71
13 年ぶりに改訂 より多くの人が使えるモノ・サービス／星川安之」

2014 年 12 月 1 日、ISO（国際標準化機構）/IEC（国際電気標準会議）ガイド 71 の改訂版が発行されました。

高齢者・障害者配慮規格を国内で作成し、国際規格としても提案してきた日本は、JTAG（合同専門諮問グループ）に積極的に参加することとし、改訂作業が始まりました。

3 年半に渡る討議の結果、改訂が行われ発行の運びとなりました。

ガイド 71 の変更点は以下のとおりです。

・タイトルが「規格でアクセシビリティに対応する」となり、対象となる人がより多くの人たちに広がりました。
・配慮の項目の表は、ISO/TR 22411（TR：技術報告書であり、データ集）に移すことになりました。
・新たに「アクセシビリティ目標」という理論的な章を設けました。
・人間の能力と特性を記述するのに ICF コード（世界保健機関の国際生活機能分類）を使用することになりました。
・多くの人の身体特性とニーズを合わせて考えながら規格を作成することの必要性を解説した章が加わりました。

改定されたガイド 71（英語版）は、利用する当事者団体からの声もあり、ISO の判断により以下のアドレスから無料で入手することができます。

http://www.iso.org/guide71

（福祉介護テクノプラス　2015 年 2 月号より抜粋）

（１７４）製品関連記事

▼「直感的に動かす 健常者も楽しく／WHILL」

「WHILL Model A」と名付けられた製品は、一見すると格好いい電動車椅子。開発・販売を手がけるのはベンチャー企業の WHILL。障害を持つ人や高齢者にはもちろん、健常者にも楽しく乗れる。そんな次世代パーソナルモビリティ―として開発した。

従来の車椅子との大きな違いは、高い機動力。四輪駆動により砂利道など悪路での走破性を高め、最大 7.5cm の段差を平気で乗り越える。しかも小回

りがきき、狭い屋内での移動もスムーズだ。

ユーザーインターフェースでも革新的だ。パソコンのマウスに似たコントローラーで直感的に操作できる。近距離無線規格「ブルートゥース」に対応しており、米アップルの「iPhone」で離れた場所にある WHILL を手元に呼び寄せられる。最高速度や加速度もスマホで調整する。将来的には全地球測位システム（GPS）機能や路面の状況を記録するセンサーを内蔵することも考えているという。

（日経産業新聞　2 月 4 日 2 面より抜粋）

（１７５）サービス関連記事

▼「食品販売者、家の前まで 地域スーパー生きる道／とくし丸」

近くにコンビニエンスストアやスーパーがあっても、買い物に出かけることのできない高齢者らの玄関先に商品を届ける－。移動スーパーのとくし丸は、地域スーパーと組んで「とくし丸」事業を全国に広げている。

巡回エリアは JR 徳島駅から半径 2～3 キロメートルの狭い範囲で、近隣にはドラッグストアやスーパーマーケットも立地するが、「買い物難民」はそんな地域にもいる。

買い物難民は高齢化などで現在も増加傾向にあり、移動スーパーに関心を寄せる企業は多い。

ネットスーパーや生協と異なり、移動スーパーは利用者が自宅近くで棚に並んだ多彩な食材を実際に確かめ、購入することができる。玄関先まで買い物の楽しみを持ち込む移動スーパーは、食品スーパーの生き残りのカギとなりそうだ。

（日経 MJ　1 月 30 日 1 面より抜粋）

() 行政関連記事

▼「家電操作 思うだけ／島津製作所、産業技術総合研究所」

脳の情報を読み取って機器操作に活用する BMI（ブレイン・マシン・イン

ターフェース）と呼ぶ技術。国際電気通信基礎技術研究所（ATR）、NTT、島津製作所などが共同研究をしており、2020 年頃の実用化を目指している。実現すれば病気や怪我高齢などにより身体が不自由な人の日常生活がぐっと楽になる。

カギを握る要素技術の 1 つが島津製作所の脳血流計測装置。頭に付け、感覚や運動をつかさどる大脳皮質の表面の血液の流れや量を計測する。

しゃべらなくても意思疎通を伝えられる技術は脳波からの研究も進む。産業技術総合研究所が取り組む意思疎通伝達装置「ニューロコミュニケーター」だ。選択肢から「これだ」と注意を向けると人に情報を伝えることができる。

頭部にキャップ状の小型脳波計をつけて、脳波の変化をとらえて解析する。医療・福祉機器として、技術移転などを通じての早期実用化を目指す。

（日経産業新聞　2 月 4 日 3 面より抜粋）

() その他、各種関連記事

▼「妹、5 歳で検定最年少合格 」

全国手話検定試験（全国手話研修センター主催）の 5 級に幼稚園生の阿萬暖々果（あまんののか）ちゃん（6）が昨年 10 月、最年少となる 5 歳で合格した。

暖々果ちゃんには小学二年生の兄、和春（にこはる）君がいる。内耳や聴覚神経に障害がある感音性難聴の和春くんのために、清香さんと祐典さん夫妻は、暖々果ちゃんが生まれた年に手話を習い始めた。

昨年、清香さんと手話の DVD テキストを見ていた暖々果ちゃんは、読み取った手話の意味をスラスラと口にした。驚いた清香さんは、検定への挑戦を娘に提案した。

試験は昨年 10 月。面接試験では「好きなことは？」と聞かれ、「ピアノを引くことと料理をすること」と答えた。次の質問の「嫌いなことは？」は想定外だったが、「お兄ちゃんと弟と喧嘩することです」とその場で思ったことを伝えた。結果は合格だった。

「もっとたくさん話せるようになりたい」という暖々果ちゃんは、幼稚園の友達位に手話を教えることもある。22 日には西都市である「まちなか地域福祉まつり」で、園の友達 25 人で手話を交えた歌を披露する。

（朝日新聞　2 月 7 日 8 面より抜粋）

（）新刊紹介

▼『イラストで学ぶ音声認識』

音声認識技術をイラストを用いてわかりやすく解説した書。音声認識を「声を文字に変換する」という問題に限定せずに、人間とコンピュータが対話を行う技術にまで発展させる方法も説明する。確認問題付き。

著：荒木雅弘（あらき・まさひろ）
発行：講談社
本体価格：2600 円（税別）
ISBN：978-4-06-153824-5

▼『バリアフリーと音 Dr.Noise の「読む」音の本』

人はどのように音を捉え、感じ取り、活用するのか。「音」の視点でバリアフリーを考え、音のバリアフリーの実際について、さまざまな角度から紹介します。

編：日本騒音制御工学会
共著：船場ひさお（ふなば・ひさお）
発行：技報堂出版
本体価格：2300 円（税別）
ISBN：978-4-7655-3464-2

（編集後記）

平成 26 年度より、視覚障害者に配慮された取扱説明書の規格作成事業を始めました。今年度は、視覚障害のある方たちへのインタビュー調査と国際障害者団体へのアンケート調査を行いましたが、使い方がわからない時などは、問合せ窓口で操作方法を教えてくれるサービスや、その製品に精通した人がいる家電量販店が便利だという声が挙がりました。しかし、夜間や外出ができない時などは、やはり取扱説明書がたより。

来年度から、具体的に取扱説明書の規格案の作成が始まります。取扱説明書

の使用者、作成者の意見を聞きながら、取り組んでいきたいと思います。
（金丸淳子）

共用品推進機構公式サイト　http://www.kyoyohin.org/
共用品ニュース（ブログ）　http://www.kyoyohin-news.org/